



ふるさとを応援

「ふるさとに貢献したい」。そんな思いを形にできる制度として誕生した「ふるさと応援寄附金」。町では平成20年度の創設以来、4年間で約1600万円が寄附されています。

寄附金は①自然環境・景観づくり②地域資源の利用③地域の活性化④安全な社会基盤⑤教育環境⑥健康な暮らし⑦町長にお任せの7項目から使い道を決めています。郷土を思う気持ちは、「ふるさとの再生と創造」の原動力として、大切に利用されます。

この制度は税金の控除が受けられます。詳しい内容は直接お問い合わせください。

▼申し込み・問い合わせ

役場総務課管理係 ☎282-1111



町は御船高校90周年記念式典に合わせて10月7日、ふるさと交流事業を開いた。この事業は、御船高卒業生同士と町の交流を深める目的とした初の試み。ふるさと寄附金の一部を交通費助成に充てた。情報交換会では、都市再生整備計画事業の説明、交流座談会を開き、ふるさとの今を伝えた。事業は、年度ごとに内容を検討して、御船高卒業生が御船町へ来るきっかけづくりを支援していく予定だ。



御船高等学校同窓会
東京御船会

田中 慶美 会長
(昭和29年卒、嘉島町出身)

田んぼ道を通った古里

東京御船会は設立して10年。愛知県から北海道までの東日本で会員1000人以上です。御船高校には3年間、田んぼ道を自転車で通学した古里です。記念式典に参加しましたが、工夫が施され、全校生徒と記念を祝えてすばらしいの一言。高校時代はとても大事な時期で、友達との絆をしっかりとつづけて、人と人、御船町とのつながりを大切にしたいと思っています。御船町は、都市再生整備計画事業が実現できたらすばらしい町になると思います。ふるさと交流事業は、今後もやっていただいたらありがたいですね。

Special Interview 2

関西御船会を設立して20年。会員は近畿6県で約450人います。同窓会を開いて古里を思い出しながら、旧交を温めています。御船町は昔、田舎まちでしたが、今は大きな道もできて、どんどん発展しています。御船高校は、ロボットや書道を含め、ものすごく後輩が活躍して、頼もしく感じています。同窓生も大いに期待していますよ。町には、交流事業を企画してもらって、同窓会へ話をもちかけてほしいと思います。九州新幹線もつながって、熊本へ来やすくなっていますから。御船町を離れて約50年になりますが、何十年経っても郷土愛は変わりませんよ。

50年間変わらぬ郷土愛



御船高等学校同窓会
関西御船会

菊川 勝行 会長
(昭和33年卒、御船町出身)

古里が育む郷土愛

御船高校は90年間、御船の大地で伝統を受け継ぎ、歴史を築いてきた。昔と今、郷土の町並みは変わったかもしれない。けれど、母校の存在は変わらない。船高生の活躍は頼もしく、勇気づけられ、誇れる存在だから。それは御船町民もきっと同じ思いだ。いつの時代も御船高校と御船町は、古里という言葉でつながっている。古里は、人の思いと行動で進化しながら、郷土愛を育んでいく。郷土愛を持ち続けられ、御船町の未来はきっと輝き続ける。何十年後も、何百年後も、ずっと、その先も――

緑豊かな古里の町並み

この大地は今日も

人と人をつなげながら

郷土と共に歩み続けていく

郷土と共に(終)

(写真/御船町甲佐町衛生施設組合から望む町並み)

【参考文献】御船高等学校50年史/御船高校八十年のあゆみ/御船町史/御船町土記
【写真提供】御船高等学校

古里



百年へ向けて、新たなスタートをきった御船高校。
郷土の母校は、在校生や卒業生、御船町にとってかけがえのない存在であり続ける。
これから先も御船高校と御船町は、古里という言葉でつながっていく。
遠くに離れていても、古里を思い、応援する人がいるのだから。

Special Interview 1

人の温かさに触れ過ぎた郷土 後輩と母校のために全力で応援



御船町名誉町民
松永 昌一さん

御船町には、暮参りで2年に一回は帰っています。帰郷すると、御船弁が懐かしく感じられます。慣れ親しんだ言葉なんですよね。

記念式典で御船高校生を拝見しましたが、しっかりと見守り、頼もしく感じました。私も卒業生として、名に恥じないよう後輩たちを支援して、母校を応援していこうという思いが芽生えました。御船高校生は、私の子どものような存在ですから。

活気ある御船町になっても



↑山本町長から御船町名誉町民章のタテを受けとる松永さん

らうためにも御船高生が主体となり、頑張っていって欲しいと思います。世の中は広く、小さいことに捉えられず、夢をもたなければいけません。それはいくつになっても同じ。夢を叶えていくことによって、自分たちの生きる道もできてくると思います。

●プロフィール

まつなが・まさかず
昭和8年、御船町小坂地区生まれ。昭和27年、御船高卒。昭和42年、水道機器などを製造する(株)F.M.バルブ製造所を設立。代表取締役社長を務める。平成21年度から、ふるさと応援寄附金で町へ毎年500万円を寄附。その一部は町から御船高校へと手渡され教育分野に生かされている。その功績を称えて平成23年10月7日、町で5人目の名誉町民に認定。埼玉県在住。78歳